

私たちは初対面の時、この人はどういう人なのか何を見て判断しているのでしょうか。私たちは雰囲気や一つの行動だけを見て、この人はどんな人なのかを決めたりしていないのでしょうか。また最近の医学では人は類似した行動を取り、さりげなく相手に見せることが自分への好意として受け取ってもらえることが分かってきました。それ以外でも自分と共通する部分（出身地、出身校、過去の境遇など）を見つけると親近感を増していきます。このように私たちの判断基準というものは一定ではありません。統計的に約8割の人が「色の白い、顔の小さい、耳の小さい…」なぁと感じると「消極的、心の狭い、内向的」という印象を周りは持ち、また「髪の毛のやわらかい、目のまるい、ほおのふっくらした…」なぁと感じると「感じのよい、親しみやすい、親切」という印象を与えるといわれています。しかしこのように私たちは第一印象などで周りを判断し続けていて良いのでしょうか。もちろんそれが良くない事は分かっていると思います。それは多くの失敗に繋がっていったこともあったかと思えます。また表が華やかであれば、見せられない、隠したい裏が存在している可能性があります。それは人は華やかに見える方が目がいってしまうからです。私たちは多くの人が見ている判断基準ではなく、聖書では狭い門から入りなさいと言われてるように、物事の本質を探っていく必要があります。そして今、教会に来ている方々は狭い門から入ってきていると言うことができます。私たちは周りの人の行動を見る時、それを何故しているのかを考えているのでしょうか。（マタイ26：45～56）ゲッセマネの園で祈っていたイエスの元にイスカリオテのユダとイエスを捕えにきた兵たちがきました。ペテロはその兵隊に切りかかり、兵の耳を切り付けました。その時イエスは敵対する兵隊を癒しています。そして剣による抵抗をやめるように教えています。そのような中で弟子たちはイエスを見、考えて行動したのではなく、周りの状況に目が向き逃げてしまいました。私たちも同じように、見るべきものを見て考えていないと正しい行動がとれず、その場から逃げてしまうのです。私たちは見ている視線を変えなければいけません。そうしないと大事なチャンスも逃してしまうかもしれません。そしてそういう時というのは、過去にあった良いことなど全て忘れてしまい、今が悪ければ、今の悪い状況だけで判断するようになってしまいます。そして自分と類似している人を探して僅かな同情を求めて生きていくようになります。そのような時、私たちにとって正しいことを言ってくれる人はいるのでしょうか。この正しいことというのは私たちにとって大抵聞きたくないことであり、耳を塞ぎたくなるものです。相手の中に類似性などは見つけれないものです。だからといって伝えないのではなく、たとえ反発されようとも、嫌われようともそれを伝えるのでしょうか。それは私たちが神様に愛されているからこそ伝えるべきなのです。私たちがそのまま進んだら将来大きな問題にぶつかること分かっているからこそ、私たちの弱さを教えてくれているのです。私たちは周りの人と接する時、うわべですか、へつらっていますか、それとも本気でしているのでしょうか。その思いが伝われば、たとえ聞こえの悪いことであっても、私たちが離れ去ることはありません。周りの人をうわべでしか判断していないと、自分自身を見る時もうわべでしか見る事ができなくなってしまいます。自分自身を見る事ができないために、簡単な方向に進むようになります。しかし私たちは深みに手を入れ、探さなければいけません。浅いところだけを探してはいけません。（民13：17～33）出エジプトした民は神の約束であった「乳と蜜の流れる地」を目指していました。しかし偵察に行った12部族の代表の内ヨシュアとカレブを除く、10人は地の産物を見て、確かに乳と蜜の流れる地であったと認めてはいるものの、強い民がいるから私たちは入っていけないと目の前の状況だけを見て判断し不信仰な思いをイスラエルの民に伝播させてしまいました。それに対してヨシュアとカレブは信仰に立ち、約束の地に行けると判断していました。その信仰ゆえにヨシュアとカレブ以外のイスラエルの民はカナンを目前にしなが、約束の地に入れず荒野を旅し世代交代することになります。私たちやったほうがよいと言われていたことはやらない、やるなどと言われていることはしてしまふ。そして失敗すると文句を言ってしまう。これを繰り返しているのです。今、私たちは新会堂に来ています。それであれば、このようなことを繰り返さないようにしましょう。私たちは①**問題の表面を見ない！！真髓を探る（ルカ5：4～5）**夜通し働き、何もとれない現実がありました。しかしお言葉通りに網を下ろしましょうと行動しました。このように、人は言われた時、素直に聞けないときもあります。それで聞かないのではなく行動しました。することによって素晴らしい神の奇跡を見るに至りました。そして同じするのではあれば、素直に聞いて行動した方がもっとよいのですが…。私たちは長く留まっていたので、今日から向きを変えて出発していきましょう。②**自らを神さまの目線で探る！！**自分のことを見る時に神の目線で見ていません。普段はそうではないのですが、失敗すると自己卑下、自己否定を繰り返していきます。自分の欠点についてはたくさんことを認識しています。しかし神さまはそのようには見ていません。私たちの悪いところを見るのではなく、良いところをみてくれています。（詩篇139：23～24）私たちはどうして悪い考え、行動になってしまうのでしょうか。それは裏切られ悲しい事があったからです。それを回避しようとする行動は良いとはいえません。ですから自分のことを見る時、神の目線でみると宣言していく必要があります。私たちは神さまが命をかけるほど価値があると思われています。良い部分が伸びれば悪い部分は自然と消えてしまうようになります。そうすると③**もっと神さまを探る！！**ようになります。自分では自分のことをよくすることはなかなかできません。ですから私たちを変えてくださる神さまを探り求めるようになるのです。私たちが持ってしまった神の小さいイメージを横において、もう一度神を探っていきたいと思えます。私たちに願っていることはこのことです。なぜなら私たちは神から離れてしまったからです。しかしそこから神とはどういう方なのかを探りながら、歩いていくことを望んでいます。ですから浅く知るのではなく、じっくりと深く探ることができるようになってほしいと願っています。今までは周りの人がしているから同じようにするという考えで生きてきている部分があります。今週、もう一度神さまを深く探してほしいと願っているのです。神さまはどんな方、神が愛している私はどんな人なのか、そして周りに起きている現状はなぜ起きているのかを深く探るようにしていきましょう。そうすれば、神は近くにいることが分かります。なので私たちは目の前の現状に右往左往されずに歩いていくことができます。今日から揺り動かされないと宣言していきましょう。（要約者：平澤 一浩）